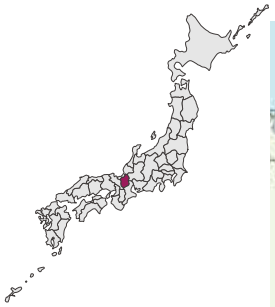
滋賀県農業信用基金協会

1 滋賀県の紹介

日本のほぼ真ん中に位置する滋賀県。県土の約6分の1を占める日本最大の湖・琵琶湖を抱え、水と緑の豊かな自然にふれ合うことができます。琵琶湖の面積は約670km^2。水の量は約275億トン。これは琵琶湖の水を利用する淀川流域の1450万人が1日に使う水の量の約11年分に相当します。

その雄大さと変化に富んだ風景は、「琵琶湖八景」や「近江八景」として滋賀県民の心に刻まれています。

また、琵琶湖は世界でも有数の古い歴史をもつ湖です。約400万年前に現在の三重県伊賀市付近に浅くて狭い湖ができ、その後、断層運動の影響を受けながら、形状を変えて移動し現在に至っています。一般的な湖は土砂の堆積の影響を受けて1万年程度で消失してしまいますが、最初の古琵琶湖からは約400万年、現在の琵琶湖になってからでもおよそ40万年という大変長い時間の中で琵琶湖の生物の一部は独自の進化をとげ、琵琶湖にしかいない種（固有種）が生まれました。多種の固有種を誇るなど貴重な自然環境を有するとともに、近畿圏の生活や産業の発展に欠かすことができない国民的資産です。



琵琶マス（固有種）

2 滋賀県の農業について

滋賀県は、琵琶湖をはじめとした豊かな自然の恵みを受けて、近江米をはじめ多彩な農産物が生産されています。

令和4年7月には琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業「琵琶湖システム」が国連食糧農業機関の世界農業遺産に認定されました。そのうち農業では、琵琶湖の水質や生態系を守るため、排水を管理し農薬や化学肥料を減らす「環境こだわり農業」や琵琶湖から田んぼに遡上して産卵する湖魚を支える「魚のゆりかご水田」などが営まれています。

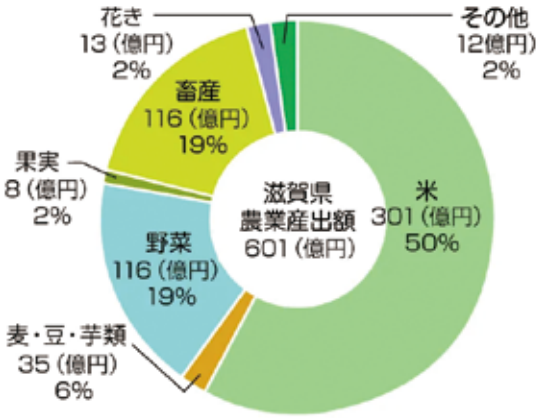
現在「みずかがみ」や「コシヒカリ」といった近江米の産地として、農業が盛んに行われており、農地面積のうち水田の面積は46,500haで「水田率」は約93%（令和5年）と全国で富山県に次いで2番目の割合となっています。

また1戸あたりの飼養頭数が全国上位を誇る肉用牛のうち近江牛は、日本三大和牛の1つとも言われ、安全・安心で高品質な牛肉として、国内外に広がっています。

そういった環境下で滋賀県では、集落単位でまとまって農業を行う集落営農が盛んに行われており、「集落営農法人」は「363組織」と、全国で3番目の多さで構成され

ています。

近年では、滋賀県初のオリジナルいちご新品種「みおしずく」、近江米新品種「きらみずき」が令和５年度から本格的に生産・販売が開始され、県を代表する新たな「宝」となることが期待されています。



令和4年度農産物産出額の品目別構成（億円）
（出典：JA 滋賀中央会ホームページ）

近江牛

みおしずく

米

きらみずき

3 滋賀県農業信用基金協会の概要

当協会は、理事９名（うち常勤１名）、監事３名、職員 14 名（うち嘱託職員２名）で総務部および事業部（業務担当、管理担当）の２部体制により業務を行っています。

4 滋賀県農業信用基金協会の活動

令和６年度は第 12 期中期事業計画の初年度として「保証機能の発揮」「期中管理及び求償権の管理強化」「経営の健全化」を柱に保証事業の推進に努めています。

特に住宅ローンにおいては、他保証機関との競合により協会利用率は減少傾向にありますが、令和５年９月に導入した保証審査システムの更なる活用により保証審査の充実・強化を図り、他保証会社との競争力を強化し保証利用の推進を行っています。

農業を取り巻く状況は、後継者問題や生産資材の価格高騰・高止まり等経営への影響も懸念されるところですが、ＪＡ等融資機関をはじめ、関係機関との連携を図り、農業の経営の安定・成長に貢献できる保証機関として事業推進に取り組んでいます。